

独立行政法人国立病院機構 関門医療センター



所在地：山口県下関市長府外浦町
延床面積：約30,000㎡
構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上7階建
設計：(株) 梓設計
施工：建築 / (株) フジタ広島支店
電気 / (株) 閃電工
開院：平成21年4月

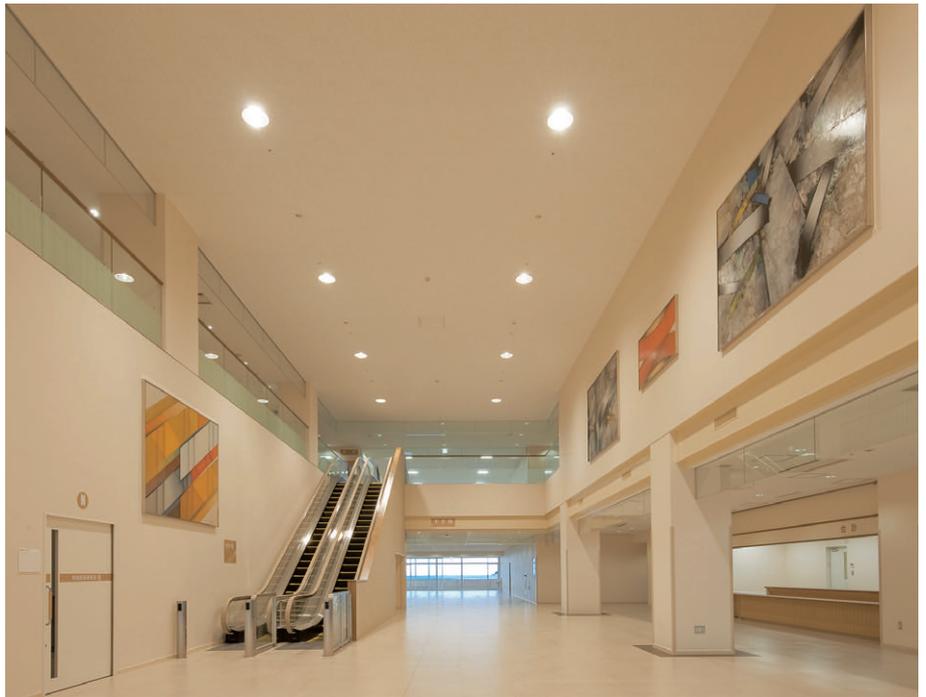
下関市後町所在の「国立病院機構関門医療センター」は、老朽化、狭溢化などに伴い、関門海峡沿いの下関市長府に新築移転。照明は医療機能に応じ最適な光源・器具を採用しています。

23の診療科と400床のベッド数で患者中心に取り組んでいる医療センター

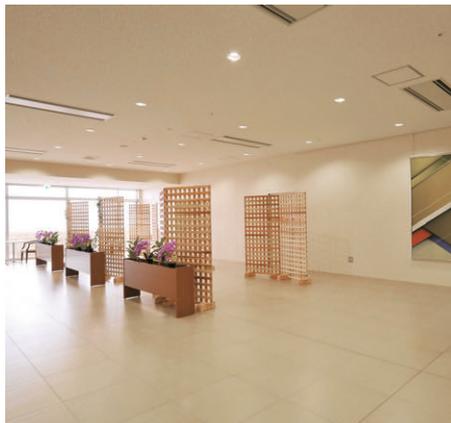
新しく整備された「関門医療センター」は、患者中心の『健康応援病院』を基本理念に、入院患者には疾病別に7つの疾病センターを、外来患者には8つの総合診療外来を立ち上げ、それぞれ患者のベッドサイドや診察室に23診療科の専門医が直接足を運び、チームワークで総合的に診療が行われています。また、最先端の医療機器を導入したがん治療センターや生活習慣病センターなど最新・最良の医療を実現しているほか、24時間365日対応の救急センターを設け、病院敷地内に県内初のドクターヘリの離着陸場が整備されています。

クリーンルーム用器具や調光器具など医療機能に最適な器具を使い分け

総合受付がある1階待合ホールは、明るく広がる吹抜け空間で、照明は高効率・高演色のMF400Wダウンライトを均等配置し、空間全体を明るくして開放感豊かな光環境を実現しています。2階診察待合室の照明は、限られた面積・天井高さの中で、空間を広く見せ、かつ柔らかな光で安らぎ感を創出するため間接照明を主体に採用。X線撮影室やCT室などの各検査室の照明は、FHF32W2灯用埋込器具連続調光形を使用し、医療に必要な照度を確保しつつ、グレア防止を図っています。手術室はもちろん、手術前室などの照明は高い清浄度が要求されるため、クリーンルーム用器具を採用し、無埃・細菌侵入防止を図りつつ、適正照度を確保しています。透析室の照明は、長時間ベッドに寝ながらの治療を考慮し、FHF32W2灯用下面乳白カバー付器具をベッド中央からずらして設置し眩しさを軽減。それぞれ個別点灯としています。スタッフステーションの照明は、必要に応じて、ルーバなどのユニットが組合せられるシステムアップ器具を採用。廊下側の壁面上部には壁面間接照明器具を用い、カウンター上を明るくしつつ、スタッフステーションを離れた位置からでも視認できるように配慮。病室のベース照明は、重患用ではクリーンルーム用器具を、一般病室にはFHF32W2灯用バツフル付埋込器具を使用し、ベッド灯は間接照明・読書灯・常夜灯が一体となったホスピタルブラケットを採用しています。



1階待合ホールの照明 吹抜け天井に400Wメタルハライドランプダウンライトを設置し、明るく開放感のある空間を演出



待合ホールの奥に設けられているメディカル情報コーナー
ダウンライトの明かりで落ち着いた空間を形成



2階診察待合室の照明 柔らかな間接光主体の照明で広い空間と安らぎ感を演出



診察室の照明 (FHF32W×2埋込システムアップ器具)



CT検査室の照明 (FHF32W×2埋込調光形器具)



手術前室の照明(クリーンルーム用器具強化ガラス付)



透析室の照明 FHF32W×2乳白カバー付埋込器具調光形を使用し、拡散光で柔らかく眩しさを軽減



病室（重患用個室）の照明 ベースにクリーンルーム用器具、ベッド灯にはホスピタルブラケット



病室（4人部屋） ベースにFHF32W×2パツル付埋込器具、ベッド灯にはホスピタルブラケットを設置



医療緊急センターの照明 クリーンルーム用器具をベッドを囲む形で口の字配置

病棟のスタッフステーションの照明 システムアップ器具を使用し、必要な場所にはルーバなどのユニットを設置。廊下側壁上部には壁面間接照明器具を採用

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
室内	ダウンライト	DD-4031M	10	400Wメタルハライドランプ
	ダウンライト	FHD-31506-PM9	1522	32Wコンパクト形Hf蛍光ランプ
	埋込器具	FHR-42848-PA9	828	32WHf蛍光ランプ×2
	埋込器具(調光形)	FHR-42848-PD9(改)	105	32WHf蛍光ランプ×2
	埋込器具(下面カバー付)	FHR-42967K-PH9	85	32WHf蛍光ランプ×2
		FHR-41967K-PH9	16	32WHf蛍光ランプ
	クリーンルーム用埋込器具(ガラスカバー付)	FHR-42432-PA9	126	32WHf蛍光ランプ×2